

**2019 年度 自己評価 結果及び対策・改善報告書**

評価項目	評価結果 及び 対策	改善結果（進捗状況）
I、組織体制について	<p>今年度に入り、実人数が増加したこともあり、使用スペースが適切ではないとの評価が多くあり。1箇所での支援は、困難になってきていることもあり、発達段階によりグループ分けを行い支援方法・支援場所を検討しながら提供している。</p> <p>また、今後の新規受け入れについても検討している。</p>	<p>2020.4 の新 1 年生の受け入れが困難なため、定員 10 名から 20 名に変更を愛光園として検討。一宮本体を従たる支援場所として決定。2020.4 の開設を目標に準備を進めている。支援場所のグループ分けに関しては発達段階にあわせて選定。活動方法についても、検討中。</p>
II、業務改善	<p>昨年度から、保護者向け評価を実施し、ホームページにも公表した。</p> <p>職員の質の向上については、外部・内部の研修実施。資格取得のための研修にも参加している。</p>	<p>職員のスキルについては、「根拠ある支援」を目標にアセスメント力の向上を目指したカンファレンス会議を実施し、成果は見られてきている。今後も、追及していく。</p>
III、適切な支援の提供	<p>支援計画書は、更新時にモニタリング・アセスメントを行い、計画書の更新を行っている。また、それに伴う情報共有のための他事業との支援会議にも参加できている。</p> <p>日々の受け入れに関しては、支援開始前に打ち合わせ実施し、職員の役割分担や注意事項等の共有も継続。</p>	<p>「根拠に基づく支援」により、支援計画が具体的、個別化されてきている。職員への共有は、打ち合わせにて再度確認を行っている。来年度に向けて、職員の編成や役割分担の再編成を行っていく。</p>
IV、関係機関や保護者との連携	<p>保護者との連絡は、連絡ノートの活用継続。児童によっては、学校、他利用放デイとの共通の連絡の手段としても活用している。</p> <p>児童発達支援センターとの繋がりも出来てきており、就学前の情報や今後のサービス利用についての会議も継続中。</p> <p>保護者へのペアレント・トレーニング支援が十分できていないが、個別については必</p>	<p>連絡ノートは継続。新規利用開始の児童においては、児童発達支援センターや福祉課障がい課からの情報共有や事前に活動の様子を見せていただく機会をいただけるようになった。</p> <p>家族会のあり方については、児童の年齢や特性によっても異なるため、テーマを絞って実施</p>

	要時対応できている。	していきたい。
V、保護者への説明責任等	<p>保護者からの子育ての悩み等の相談には応じ、必要な助言は実施しているが、関係機関への必要性もお伝えしている。</p> <p>地域住民との関わる機会は、ほとんどできていない。</p>	<p>保護者の「困りごと」は日々変化している。その時の最適な対応に関して、専門性を有する場合は、関係機関に繋げるための各機関との関係は深めている。</p>
VI、非常時等の対応	<p>緊急時対応マニュアルは、整備したが「放デイ」独自のマニュアルは、和合・磐田のはなえみえ統一したものを作成していく。</p> <p>定期的な避難訓練は実施できている。</p> <p>ヒアリやインシデントは報告・対策を行っているが、危険予知に対する認識が薄い。</p> <p>今後の課題である。</p>	<p>緊急時に加え、非常時の対応マニュアルの作成中。また、近隣の危険箇所等の把握のため、危険マップも作成した。</p>

(まとめ)

放課後等デイサービスとしての支援は、少しずつではあるが確立してきている。

今後は、放デイの職員の動きや働き方を変化させながら、児童一人一人に柔軟に対応できるようサテライトとの協力を得ながら進めていく。

来年度に向けては、新1年生の受け入れが困難となり、第2はなえみ開設の準備を進めていますが、活動場所が2箇所になることから、職員間のスキルアップと情報共有の方法が課題となります。

職員全員で、今年度中に対策を検討していきます。